

Course number		G-LAS12 80032 LJ55					
Course title (and course title in English)		データ科学展望II Perspectives in Data Science II		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Institute for Liberal Arts and Sciences Professor,TAMURA HIROSHI	
Group		Interdisciplinary Graduate Courses		Field(Classification)		Statistics, Informatics and Data Science	
Language of instruction		Japanese		Old group		Number of credits	
						1	
Hours		15		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
						2025・Intensive, year-round	
Days and periods		Intensive		Target year		Graduate students	
						Eligible students	
						For all majors	
(Students of Graduate School of Informatics cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)							
[Overview and purpose of the course]							
<p>情報学研究科開講の「デジタル変容実践論」と兼ねた開講になる。 情報学研究科の学生はそちらを選択すること</p> <p>2018年の経産省レポート「デジタルトランスフォーメーション（DX）レポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～」では、日本の経済発展におけるDXの必要性和現状・課題が報告された。しかしながら、2021年に公開された「DX白書2021年」では、日本の組織における硬直的な組織文化やレガシーシステムなどの既存の仕組が足かせとなり、必要な変化への対応が十分でないと報告されている。</p> <p>Society5.0の実現による更なる経済成長や生産性の向上に向けて、社会全体のデジタル化が不可欠とされる。政府もデジタル庁の設置に代表されるように、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進している。DXにより、本来の業務が効率化される恩恵は大きい。本講義では、医療や教育等を例に社会におけるDXの現状・課題・解決の方向性について議論を深めることを目指す。</p>							
[Course objectives]							
社会におけるDXの必要性がどのように位置づけられ、実施にあたっての課題にはどのようなものがあり、解決に向けた方策にはどのようなものがあるのか、を理解し説明できるようになること。							
[Course schedule and contents)]							
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2回の授業を合計8回（フィードバックを含む）で、必要に応じて学内外の専門家の意見も踏まえながら、デジタル・トランスフォーメーション（DX）の現状・課題・解決の方向性について学ぶ。</p> <p>開講にあたっては、受講生の所属するキャンパスの配置や受講形態にも配慮するとともに、対面授業以上に受講生間の活発な議論を期待し、一部同時双方向型のメディア授業で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 導入・DXの評価等（1回） - プロジェクトマネジメント（2回） - 社会（教育・医療）におけるDX-1（2回） - 社会（介護）におけるDX（1回）【メディア授業：同時双方向型】 - 研究におけるDX（1回）【メディア授業：同時双方向型】 - DXを実装した研究（1回）【メディア授業：同時双方向型】 							
<div style="text-align: right;">Continue to データ科学展望II(2)</div>							

データ科学展望II(2)

(8月25日に対面授業、8月29日にメディア授業の開講を予定)

なお、講義の進度・文科省のモデルカリキュラム等を反映して、内容・順序・日程の変更や省略・追加を行うことがある。

[Course requirements]

京都大学「統計入門」と同等(数理・データサイエンス認定プログラムリテラシーレベル)の単位を取得していること

[Evaluation methods and policy]

平常点相当(授業への参加(出席そのものではない)・小課題・授業での発言・リアクションペーパー等)60%、複数回のレポート課題等40%

[Textbooks]

Not used

適宜プリントなどを配布する。

[References, etc.]

(References, etc.)

中山 健夫「医療ビッグデータ時代」の幕開け

中室牧子、津川友介「原因と結果」の経済学

兼安 暁「DX 最前線」(60分でわかる! IT知識)

Harvard Business Review「デジタルディスラプションに立ち向かう成熟企業の競争戦略」

データから真実を見抜く思考法

[Study outside of class (preparation and review)]

参考書図書の確認、リアクションペーパーの提出などを求める。

また、オンデマンド型動画を活用した反転学習も一部取り入れるので、授業前に指定した動画の閲覧・質問の提出を求める。

[Other information (office hours, etc.)]

講義中に教員との連絡方法について指示する。また、以下の点にも留意を求める。

・情報学研究科の学生は、大学院横断科目として履修登録できない。情報学研究科開講の「デジタル変容実践論」を選択すること。

・集中講義で採点報告日以降に実施するため、成績報告に遅れが生じ得ること。

・医療データ人材育成事業(KEUP-DHI)受講生は、別途その旨申し出ること。